

特別企画

第49回 日本赤十字社医学会総会

「再生・蘇りの熊野本宮」

熊野本宮大社 宮司

く き いえたか
九鬼 家隆

こんにちは。ただいまご紹介頂きました熊野本宮大社宮司の九鬼でございます。お手元の資料にも名前を明記頂いておりまして、また私事で恐縮ですが、私の九鬼の「く」の字は漢数字の「九」そして「き」の字は「鬼」ですが、この字は頭の上の点がありません。これは点があると邪気が入るとのことから点を取りまして「かみ」と読ませました。元々は藤原氏でありましたが、今から500年ほど前に「九鬼」という姓を賜り、現在は「九鬼」と名乗っています。

本日は「第49回日本赤十字社医学会総会 今まさに赤十字の医療が求められている、紀の国から未来へ向けて」とのことで大変貴重な講演のお時間を頂戴いたしましたこと、厚く御礼申し上げます。これを機に皆様に熊野を少しでもご理解、また身近に感じて頂ければと存じます。

早速ですが熊野本宮大社または熊野にお越し頂いた事のある方、お手を上げて頂いてよろしいでしょうか。ありがとうございます。熊野は全国各地から大勢の方にお越し頂いて今お手を上げて頂いた方々も慰安旅行や、もしくは今回の医学会総会に併せてご来訪頂いたり様々な理由でお越しになっているかと存じます。熊野は「紀伊山地の霊場と参詣道」平成16年に世界遺産に登録され、来年で登録10周年となり1つの区切りを迎えます。この世界遺産は和歌山県・奈良県・三重県の三県にまたがっており、報道・メディア等でも取り上げて頂いていることから皆様も聞き及んで頂いているかと存じます。そのような事も含めまして全国からたくさんの方が熊野

へお越し頂いている要因になっているかと思いますが、ここで皆様に本日どちらからお越しになっているのか伺うのは大変恐縮なのですが、和歌山県以外の方お手を上げて頂いてよろしいでしょうか。ありがとうございます。大変ご苦労さまです。県外の方は本当に和歌山は遠いと思われたかもしれません。大阪方面から来られると和歌山市は近いのですが、熊野がある紀南地方は半島の端の方ですから非常に遠く感じられるかもしれません。ですが来年は世界遺産登録10周年で、和歌山県は元より熊野三山・高野山や各市町村で様々なお祭りやイベントが企画され全国に発信されていますので、これを機に是非ともまたお越し頂けましたらと存じます。

先ほど座長先生からお話しが御座いましたが、熊野は日本で12番目に世界遺産に登録されました。丁度平成16年でしたが、中国で行われたユネスコの委員会でこの「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に決まりました。しかしこれには大きなエピソードが御座いまして、これは私も伺ったお話で、神仏と言葉で言うのは簡単ですが説明するのは非常に難しい部分があり、その当時文部科学省を始め関係の方々がこの「紀伊山地の霊場と参詣道」をどうにか採択頂くために各資料や映像・写真などを使って委員会で説明をしたそうです。しかし最初、委員の皆様は日本が何を言いたいのか、熊野・高野・吉野のこの神仏一体の何を示そうとしているのか非常に不透明だという反応だったそうです。そして委員会の休憩時間にある3・4カ国の方から、このような

【我が国の世界遺産】(平成25年6月現在 合計17件)



((注) 地図中の水色の丸数字は文化遺産、ピンク色の丸数字は自然遺産)

- (1) 法隆寺地域の仏教建造物(奈良県生駒郡斑鳩町)(平成5年記載)
- (2) 姫路城(兵庫県姫路市本町)(平成5年記載)
- (3) 屋久島(鹿児島県熊毛郡屋久町、上屋久町)(平成5年記載)
- (4) 白神山地(青森県西津軽郡、秋田県山本郡)(平成5年記載)
- (5) 古都京都の文化財(京都市、宇治市、大津市)(平成6年記載)
- (6) 白川郷・五箇山の合掌造り集落(岐阜県白川村、富山県平村、上平村)(平成7年記載)
- (7) 原爆ドーム(広島市中区大手町)(平成8年記載)
- (8) 厳島神社(広島県佐伯郡宮島町)(平成8年記載)
- (9) 古都奈良の文化財(奈良県奈良市)(平成10年記載)
- (10) 日光の社寺(栃木県日光市)(平成11年記載)
- (11) 琉球王国のグスク及び関連遺産群(沖縄県那覇市他)(平成12年記載)
- (12) 紀伊山地の霊場と参詣道(三重、奈良、和歌山三県)(平成16年記載)
- (13) 知床(北海道斜里町、羅臼町)(平成17年記載)
- (14) 石見銀山遺跡とその文化的景観(島根県大田市)(平成19年記載)
- (15) 小笠原諸島(東京都小笠原村)(平成23年記載)
- (16) 平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群(岩手県西磐井郡平泉町)(平成23年記載)
- (17) 富士山—信仰の対象と芸術の源泉(静岡県・山梨県)(平成25年記載)

説明の仕方では採択されない、もう少し日本人として本来持っている神仏に対しての心のあり方をしっかりと明確に伝える事が大切なのではないかと指摘を受けられまして、そこで改めて日本の担当者は自分なりに神社・お寺のあり方、捉え方を日本人としての感覚を交えながらお話しになり文部科学省の方の補足などもありながら見事拍手喝采で採択されたという経緯があったとの事でした。丁度平成16年の七夕、7月7日の事でした。それから先ほど申し上げたように来年で10周年を迎えます。

その中でこの参詣道は熊野三山・高野山、そして奈良県の吉野を繋ぎ、メインルートの中辺路、高野山から熊野への小辺路、吉野から熊野への大峯奥駈道、そして紀伊半島沿いの大辺路・伊勢路のルート、それらが一同に集まる場所がこの本宮の^{おおゆのほら}大斎原という場所です。この場所は神仏一体を示す中で非常に重要な場所で全ての古道がここに繋がっておりスペインの祈りの道に次いで世界で2例目の道の世界遺産になっています。今なお熊野には仏教の宗派は問わず多くのお寺のご住職始め檀家の方々がお越しになり、時代の移り変わりはあっても今なおこの光景は変わらず続いています。



2年前に発生した東日本大震災には本日お越しになっている先生方も派遣、またボランティアで行かれた方もおられるかと存じます。今なお厳しい状況が続いていますがその時に熊野は蘇り・再生の場所という事の中で、宮城県・福島県始め東北の方々が熊野へ来られました。また全国に熊野神社は3831社ありまして、東北に非常に多く勧請されています。このような要素もあり震災後の大変な状況の中でも熊野へお参りに来られる方がおられたのだろーと思います。最も熊野神社が多いのは千葉県で268社、そして東北では福島県が235社と多くなっています。熊野神社が全国に広まった要因として修験道の山伏や熊野比丘の存在があります。熊野で修行した山伏が全国に散らばって行き熊野神社を勧請した例、また熊野比丘尼と言うのは尼さんですが、この熊野比丘尼が熊野曼荼羅という絵を持って全国各地に赴き、そこで絵解きをして熊野信仰を広めました。今でいう広告の役目を負っていたわけです。それ以外にも海流の関係で太平洋側には多く勧請されました。沖縄県には琉球八社という8つの神社がありますが、この内7社が熊野神社を勧請したものです。熊野神社

という名称では呼ばれませんが、例えば那覇には波上宮・沖宮というお社があり、また普天間市には普天満宮というお名前のお社があり、熊野神社が勧請されています。千葉県や東北、また沖縄に多くの熊野神社が海流に乗って勧請されたのは、一つに補墮落渡海という風習がありました。熊野那智大社の近くに那智浜という場所が御座いますがそこから海の上にあると考えられた常世の国へ行くために多くの僧侶が身一つで海へ出て行きました、そういった方が海流に乗って流れ着いた先で熊野神社を勧請したという一つの事例があります。

続きまして神社についての基本的な事をお話しさせていただきます。まずは鳥居についてですが、一口に鳥居と言っても様々な形が御座います。

例えば伊勢の神宮の鳥居は伊勢鳥居と申しまして笠木が五角形で柱は円柱、反りはありません。また同じような形では神明鳥居や靖国鳥居といった形があります。その他にも鹿島鳥居、山王鳥居等様々な形があります。熊野本宮大社の鳥居は明神鳥居という形式の鳥



居で笠木と島木に反りがあるものとなっています。鳥居というのは人間の住む世界から神域への入り口に当たり、一つの区切りに建っています。



これは熊野本宮大社の大斎原入り口に建っている大鳥居でございまして、丁度 11 年前に建てられました。高さは 33.9m で木ではなく合金できております。明治 22 年以前はこの場所に東鳥居という木の鳥居が建っておりま

した。11 年前に当時の宮司が蘇り・再生の場所である所で、さらなる日本の再生とこの熊野から 1 つ心の置き方をしっかり示していく必要があり、そのためにはこの大斎原という場所をしっかりと多くの人々に周知し、お参り頂く事が心の入れ替わりになるという事でこの場所に建てました。また現在御社殿が鎮座している境内の入り口には同じく明神鳥居の桧で作られた鳥居が建っています。



次に手水ですが、神社に行きますと手水舎

というものが必ずあります。手水というのは参拝の前に手を清めるものですが作法がありまして、まず左手を洗いまして次に右手を洗います、その後左手に水を少し受けて口を清め最後に左手をもう一度洗い柄杓の柄を清めるとというのが一連の作法となります。



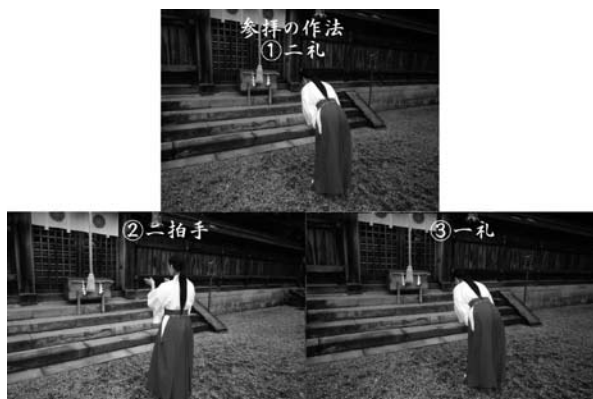
手水を終わると御神前に進みます。これは本宮大社の御神前の写真でこの場所でお参り頂きます。現在各神社の御神前には賽銭箱が置かれていますが、昔はこの場所に五穀豊穡のお米や野菜を感謝の気持ちを持ってお参りしてお供えするという形でした。それが貨幣文化の発達によってお金をお供えするという形に変わっていったという背景が御座います。今でも時折農家の方が収穫したお米や野菜をお供えする事も多々ありますし、自然の中から頂戴した恵みをお供えして感謝を捧げるの

が本来の形であります。

御神前に進むと二礼二拍手一礼の作法にてお参りをします。まずこの2回お辞儀をするというのは、自分が心の中で今日はどこどこから来ましたと名前を申し上げ、拍手を打った時、2回目の拍手を打った時に手を添えた状態で今日のお参りの趣旨を唱え、その後宜しくお願いします、がんばって参りますという意味がこの二礼二拍手一礼に込められていると言われています。全国どこの神社でもこの二礼二拍手一礼は共通しています。ただ伊勢の神宮は少し変わって八度拝・八開手という作法があり、また出雲大社と宇佐神宮は四拍手という作法がありますが通常はほとんどの神社が二礼二拍手一礼の作法にてお参り頂く形になっています。また御社殿の真ん中は正中と言いまして神様の通り道とされています。お参りの際は正中を避け、社殿に向かって左右どちらかでお参りするのが望ましいと存じます。



熊野本宮大社は明治22年の水害まで熊野川と音無川、岩田川にかこまれた大斎原という場所にありました。この図は当時の様子を描いた絵図で現在の社殿は町並みの山手に水害後の明治24年に移築され、皆様が時折テレビや雑誌で御覧頂くお社が鎮まっています。この熊野本宮の奥は奈良県吉野ですが、明治22年当時山の木々が切り出され山に保水力がなくなり、そこに長雨が降ったことによって水害が発生したと言われております。発生した土石流は多くの家や人々の命を飲み込んで、この熊野本宮大社の御社殿も被害に遭ったのです。しかし御社殿は5棟の内3棟が残りましたので、当時の人々知恵を結集させ現在の



場所を決定し山を切り開き1年8ヶ月という短期間で見事に移築したわけです。この大斎原左手の細い川が音無川ですが江戸時代以前は橋がありませんでしたので参拝の人々は草履のまま川を渡ってお参りしていました、これを濡藁沓ぬれわらうづの入堂と申し上げます。そしてこの場所へお参りに来られた方々は一旦自分の想いを置いて無の状態むのじょうたいで川のせせらぎに打たれながら入堂し、この場所で自分の生き様やこれからの指針を祈りました。この大斎原は心の再生・蘇りの場所すりのところで御座いました。本宮は主祭神が素戔鳴尊すさのおのみこと、熊野では家津御子大神けつみこのおおかみと呼ばれ本地仏は阿弥陀如来とされています。そして再生・蘇りの場所であることから本宮は来世への祈りの場所という捉え方で、この場所で明日明後日これから先を見通し祈りを捧げ自分自身を切り替える場所とされています。また熊野三山の中で本宮は今申し上げました様に主祭神が素戔鳴尊で本地仏は阿弥陀如来、そして熊野那智大社は主祭神が伊邪那美命いざなのみことで本地仏は千手観音とされ、また熊野速玉大社は主祭神が伊邪那岐命いざなぎのみことで本地仏は薬師如来がお祀りされています。このように熊野三山でも中心の神仏が違いますのでおのずと各神社で役目が違ってきます。本宮は来世への祈りの場、那智大社は現世を生きている中で自分の迷いを修める場所、また速玉大社は前世の苦しみや反省等色々な出来事を一旦修める祈りの場所です。このように各神社に違うお役目がありこの熊野本来の信仰が大きく人々の心に染みて三山を巡拝されるという形になったと言われています。特に熊野本宮大社の大斎原は旧社地であり神様が降臨された場所ですので、非常に空気感が違うという方が多くおられます。一般の人々はもちろんアーティストや政治家の方もここに来られて、この場所を機転に変わったという方が多々いらっしゃいますので、そういった意味でもやはり特別な場所であると思います。また紀伊山地の霊場と参詣道の登録アドレスとして、大斎原の住所がユネスコに登録されています。これは高野山でも吉野でもなく熊野本宮大社の大斎原の住所が登録されているというのは、やはり祈りの道の通じる最終的な場所がこの



場所であることからであろうと思っております。

そしてこれが現在の熊野本宮大社の御社殿です。先ほど申し上げましたが明治22年の水害からこの3棟がどうにか流出を免れ、当時の宮司さん始め関係者の方々の知恵とご尽力により明治24年3月に現在地に移築されました。昔は今とは違いライフラインもなければ重機もない時代でしたがそういった中でもやはり日本人の強さというのは人々の心が一つになって、自分たちの生活を後回しにしてでも皆の心の置き場所を先に直そうという想いが、なんと1年8ヶ月という短期間でこの光景を作り上げたのです。これは現代に於いても考えられないという方もおり、実際土木関係者や大学の先生などに伺ってもそれは難しいだろうという回答が多くあります。またこの短期間で移築したという事実を通して、色々な災害に向き合うヒントになるのではないかなという方もいらっしゃると思います。



また、去年は当社が移築されて120年の佳節でしたので、その120年を皮切りに御屋根葺き替え工事を行いました。時にこれを茅葺かやぶきという方がおられますがこれは茅ではなく檜ひわだぶきの皮で葺いた檜皮葺ひわだぶきでして職人の方が1枚1

枚手作業で葺いており、写真のように作業中は覆屋という^{おおいや}テントが張られている時には色々な方に上に上がって頂き、また実際に屋根に触れて頂いてこういう日本の伝統文化を守っている職人の技を実際に御覧頂きました。特に職人の皆さんが若いことに驚かれています。頭領は42才か43才の方、あと20代の方もおられましてその方々は中学校を卒業し職人を目指して修行に入られた方も多くいました。これらの職人の方々は当社だけでなく厳島神社や出雲大社等も手がけている方で、こういう若い方が日本の歴史・伝統を守っているということを知って頂ければと存じます。檜の皮は120枚で一束に区切られているのですが、このお社にはそれが1600束使われております。またこの葺き替えには竹の釘が使われているのですが、これも全て手作りの釘でこれが1371000本使われて屋根の檜皮を押さえているわけで御座います。



この写真は現在の大斎原にある石の祠です。本来ここには5棟の御本殿に12柱の神様が祀られていましたが、明治22年の水害被災により2棟が流出し残った3棟を現在地に移築しました。そのながされたお社は現在の第4殿の右手に並んでおり、そこにお祀りされていた8柱の神様をこの石の祠によって合祀しております。

熊野本宮大社は仏教の中でも特に時宗・一遍上人との関わりが非常に深い場所です。一遍上人は愛媛県出身の鎌倉時代の僧侶で時宗を開いた人物なのですが、この一遍上人が熊



野本宮大社の第3殿^{しょうじょうでん}証誠殿に100日間^{さんろう}参籠され、その夢枕に熊野権現が現れて信・不信を問わず、浄・不浄を嫌わずに一切無の状態^{ごしんちよく}で人に接すれば必ず心は通じるとの御神勅を賜りました。また、大斎原には一遍上人が揮毫した「南無阿弥陀仏」という文字を写した石碑があります。神社の境内にこのような石碑がある事を不思議に思う方もいらっしゃるでしょうが、ここは先ほども申し上げましたように神仏の一体感を示す場所であり、また当社と時宗の関係を示す場所でもあるのでここに先代の宮司が碑を建てました。



次に八咫鳥のお話をさせていただきます。八咫鳥は3本足の鳥で日本の神話では神武天皇を道案内したとされ、熊野では神の使い^{のほり}とされています。この写真は八咫鳥の幟で、当社では1日が無事に始まって多くの人々をお迎えし、その方々が大きな喜びと平穏得られるよう祈るという意味を込めて国旗と共に掲揚

しています。この本宮の八咫鳥の絵柄は背景に太陽を表す赤丸が描かれており、色々な不浄な物を取り除くという意味で八咫鳥がこの中に描かれています。先ほど申しましたように八咫鳥は日本の神話で神武天皇を道案内した3本足の鳥でももちろん架空の動物であります。3本足の鳥というのは実は熊野三党という豪族の事を表すのではないかという説があり、神武東征の折に熊野へ訪れた神日本磐余彦命（後の神武天皇）は熊野の山中を檣原に向かって進んでいたが、山路は険しく思うように進めなくて困っていた所を熊野三党という宇井・榎本・鈴木という3つの豪族に助けられ無事に奈良の檣原にたどり着いたという説があり、またその際に熊野の豪族達が黒頭巾に黒装束をまとって周辺を警護したという言い伝えから3本足の鳥というお話しが生まれたという俗説が御座います。現在この八咫鳥を一番よく目にするのは日本サッカー協会のマークに使われている八咫鳥ではないかと思えます。サッカー協会がこの八咫鳥をマークに使うようになったのは、明治の時代に近代日本という中で全国から青年を集めヨーロッパに派遣するという取り組みがあり、25人ほどの若者が派遣されました。その中に熊野出身の方が中村覚之助さんという方を始め3～4人おられまして、その時にイングランドで初めてこのサッカーというスポーツを目にしたそうです。11人がそれぞれのポジションで1つのボールを追いかけゴールを目指す様子を見て、これからの日本もそれぞれの役割を持って1つの目標に向かってくことが大切なことであるということで、このスポーツを通して、現在で言う各企業や各部署で一丸となって目標を定めていけるような方向性を示す意味を込めて、是非ともこれは日本で普及したいという思いを持って帰国しました。その後横浜の地で日本初の試合を行うのですが、その時の監督とコーチにまた中村覚之助氏始め熊野の出身の方がいらっしゃいました。そのような背景があり八咫鳥がマークにされたと、また先ほど申し上げたように神武天皇を正しく道案内した八咫鳥に日本のサッカーを導いて欲しいという意味も込めて八咫鳥を使



うようになったとされています。

これは境内にある八咫ポストの写真です。昨今はメールなどの通信技術が発達し大変便利になった中で熊野を訪れた方々にはあえて手書きで手紙を書いて、自分の大事な人や家族などに送って頂く一助になればとの思いで設置しました。これはもちろん毎日郵便局の職員さんが集めに来てくれます。このポスト設置のきっかけは、愛知県西尾市というところに熊野本宮大社と縁のある熊野神社がありましてそこを訪れたときに、西尾市は抹茶が有名で抹茶色のポストを作ったというお話しを伺いました。そこで熊野では八咫鳥の色でもある黒いポストを置いてはどうかというお話しになり、いくつかの問題もクリアできたので設置する運びとなりました。今では年配の方は元より若い方々もたくさんここから葉書を出されています。



次に牛王神符という御札のお話しをさせて頂きます。牛王神符という御札は熊野で一番古い御札として鳥文字で文字が書かれています。まず右手は「熊野」、真ん中は宝という字の旧字で「寶」、左手は御璽の「璽」という字を表しており、「熊野寶璽」と書かれていま



す。熊野本宮の牛王神符は88羽の鳥で描かれておりますが、熊野三山の他の神社にも牛王神符という御札はあり、那智大社は72羽、速玉大社は48羽の鳥で描かれた御札がそれぞれの神社には御座います。この御札は古来より様々御利益があるとされていますが、病氣平癒の御札としてよく使われておりました。例えば病氣になった人がこの御札を1枚1枚切って飲んだり、また御札を灰にして水と混ぜて飲むというような使われ方がされてきました。これは当時牛の胆嚢を墨と混ぜて御札を刷ったことにより一種の漢方としての効能が期待されていたものであるといわれています。丁度14～15年前にある医学会で日本の薬の歴史を発表する機会があり、その際にこの牛王神符を是非取り上げさせて頂きたいとの事で刷っている様子や版木の写真・映像を撮影し学会で発表されたことが御座います。またこの牛王神符は誓詞としても使われておりました、特に戦国時代には多くの武将が裏面に誓いの言葉を書いて誓詞として使用した記録があります。昨今おもしろい話では、郵政民営化の時に反対派の関係者がこの牛王神符を受けられて、裏面に署名を書いてそれを国会に入る際に必ず胸元に入れて議会のやりとり



望んだという話もあります。

またこの牛王神符には印が押されていて、ここには素戔鳴尊・伊邪那美命・伊邪那伎命の御魂が描かれています。この印は毎年調製しておりまして、正月に立てる門松、その雄松を材料として印を作り替えています。古来は那智大社で刷られた牛王神符を本宮へ持ってきて、そこでこの印を押し初めて御札に命が吹き込まれるという形が取られ、平安鎌倉の時代にはそうした牛王神符が熊野比丘尼や修験者を通して全国に頒布されていました。



毎年年末になると清水寺で貫首さんがその年の一文字を書いているのは皆さんご存じだと思います。私事で恐縮ですが熊野本宮では、1年の様々な社会情勢を踏まえながら次の年にこうあってほしいという想いを込めて来年の一文字を書かせて頂いております。これは境内にある拝殿の前に掲げており、本年は飛翔の「翔」という字を書かせて頂きました。

ここまで駆け足でお話しさせて頂き説明不足な点もあるかと存じますが、特に知って頂きたい事は熊野が神仏の一体感を示す場所である事、また熊野三山が前世・現世・来世の祈りの場であることを是非覚えて頂ければと存じます。本日は大変つたない説明で恐縮ですがお時間を頂戴しまして講演をさせて頂いたこと、厚く御礼申し上げます。また是非とも熊野へお越し頂いて自分なりに熊野を感じて頂けましたらと存じます。